



Over Cancer Together Presents

がんサバイバーの声を聴こう @ AKIBA Cancer Forum 開催レポート

2015.08.08



夏真っ盛りの8月8日、若者で賑わう秋葉原にて、今年で2回目となる市民のためのがんの学会、AKIBA Cancer Forum が開催され、そのプログラムの一つとして、「がんサバイバーの声を聴こう」と題したセッションを開催しました。セッションでは、3つのテーマについて、3名ずつ、合計9名のサバイバーが、体験談をもとに社会をよくするための提言を行いました。当日は、がんサバイバーの方、企業、メディア、看護師など、様々な立場の人がお越し下さり、会場に入りきれないほど盛況でした。

まず最初のテーマは、立場によって抱える悩みも違う、ということに焦点をあてました。お父さんでもある精巣腫瘍サバイバーの**永江さん**は、妻と子のために死ねない、という思いから治療をがんばれたと言います。永江さんはソーシャルメディアで闘病生活を発信したところ、予想以上の反響を呼び、今でも交流が続いているそうです。

「ひとりもん」の乳がんサバイバー**鈴木さん**は患者会に行き、家族に励まされた、病気になって家族のありがたみを知った、という言葉を書くのは独身者には返って辛いもの。自然と患者会からも足が遠のき・・・同じ思いの独身者が集える場所をつくろう！そう思い立ったそうです。

子宮頸がんサバイバーの**澁谷さん**は、まだ20代で子宮と卵巣を失いました。まわりは恋愛、結婚、出産、という時期。自分の将来はどうなるのだろう、結婚は、恋愛はできるのだろうかと思ひ日々。でも、そんな悩みを話す場所はありませんでした。そして彼女は、若い未婚女性特有の悩みを語り合える場所を立ち上げたのです。



患者支援といっても、それぞれの年齢、背景によって、がんになったあとの悩みもいろいろです。こんなこと話せる場があれば良いのに、という思いから、患者会や発信する活動を始めた3人。きっと、この活動はあとに続く同じ悩みを抱えるがんサバイバーさんの支えになるでしょう。

続いてのテーマは妊孕性です。若いがん患者にとっては重要な妊孕性の問題。しかし、その情報は自分から求めないと得られないのが現状です。性に関する話はなかなか話にくいテーマ。でも、後で後悔しないよう、治療の前にじっくり家族や大切な人と話し合うべき、というのは精巣腫瘍サバイバーの**佐藤さん**。小児がん治療を受けた自分は不妊なんだろうか？と疑問に思った脳腫瘍・小児がんサバイバーの**大西さん**。でも、独身男性の不妊の相談ってどこに行けばいいのか、情報が見つけれませんでした。温存について予備知識を持っていたため、温存できた乳がんサバイバーの**牧野さん**。でも、温存するにあたっては悩みは尽きません。カウンセリングの必要性を訴えます。

そして最後のテーマは就労。がんになった、それだけでもショックなのに、守ってくれるはずの会社からは解雇宣告。坂本さんは治療中で頭も回らない中、解雇を受け入れてしまいましたが、サインする前に社労士さんに相談をすべき、と上咽頭がんサバイバー**坂本さん**は言います。逆に「がんになった！もうおしまいだ！」と自ら仕事をやめた肝細胞がんサバイバー**松崎さん**は、患者さんも、雇用者も、がんになっても、すぐ死ぬわけではありませんから、慌てて決断しないで、と言います。ただ、キャリアプランの変更は必要になるかもしれません。そんなときはキャリアカウンセラーに相談を、とおっしゃる**砂川さん**は、自分が血液がん・乳がんを経験したこと経験から、キャリアカウンセラーになった経歴をお持ちです。

来場者へのアンケートでは、勇気付けられた、私も話したい、明日からの仕事に生かします等、多くの嬉しいコメントをいただきました。さまざまな問題提起や提案をしてくれ、多くの方を元気付け、インスパイアしてくれた9人のサバイバーの皆さん、セッションのモデレーターをしてくれたサバイバーの**久田さん**、**岸田さん**、**宗像さん**、ありがとうございました。